

カルビー松本晃会長

「給料を増やし、社員の待遇を良くするのは一番大事な投資。人件費を減らせば、社員は会社に貢献しなくなり、新しいものが生まれにくいという悪循環になる。従業員はただの道具ではない。会社はお客さんへの責任があるが、次は従業員とその家族に対して責任がある。」

ご存じの方も多いかも知れませんが、現在、この名言がネットユーザーの間で話題になっているらしく、先日の地区本部の会議でも取り上げられました。こうした考えに対し、ネットでは、「こういうところで働きたい」「共感しましたよ。ツール（道具）と生きた人間の区別の出来ない組織に繁栄などあり得ませんね」「うちの社長とカルビーの社長交換して欲しい」といった切実な書き込みが多く見られたとのこと。ところで、わが社の場合はどうかという話になり、とある組合員の方から面白い意見が出ました。

B・・・ボーナスカットにベアも無し

P・・・プロジェクトには大判振る舞い

R・・・離職者続出

秀逸だが、笑うに笑えない。上に立つ人もピンからキリまでいるということです。

青年のひとりごと

「あなたのため」と言っても、他人の生き方に干渉してくる人間はどのコミュニティにも必ずいます。もっとも、「人」の「為」と書いて「偽」という字になるように、こうした言葉が「自分本位」の嘘であることは、誰もが経験的に知るところです。この手の人たちは出来る限り距離を置きたいものですが、こちらが何か新しい事に挑戦している時などは、求めてもいないのに、向こうの方から「お前には無理」「ダサイ」といったニュアンスで、それをやることの「リスク」を指摘し、向上欲に水を差してくるといった迷惑は避けられません。「自己評価維持モデル」という言葉があるように、この場合、彼らは、その「視野の狭さ」から、違った世界観を前に自分の存在が脅かされているように感じるため、積極的に行動している人に対し不安を煽り、気持ちを萎えさせ、自分と同じレベルにまでこき下ろすことで「安心」しようとしているわけですが、その「リスク」自体は、「行動」する上で確実に生ずるものであり、「心配事」として何かと説得力を帯びてくるから厄介です。しかし、その「リスク」は、当人がやると決めた時点でもともと頭の中にあり覚悟は出来ているわけで、今更、赤の他人がそれをドヤ顔で指摘したところで、実質何も言っていないのと同じ。何より、「あなたのため」を思って助言をする前提として、相手の日常生活における思考や行動パターン、いかなる能力を備えているか、また、どういった経緯で「挑戦」を決意したか、を熟知していなければなりません。これが分かるのは、実際に同じように行動してきた人間のみであり、本人の今の考えにエッセンスを加えて背中を後押しするといった形に終始するのが真つ当な助言というものです。ところで、他人の足を引っ張り相手の価値を相対的に下げることで「自尊心」を満たすやり方は、相手よりも「下」の位置にいないと出来ないことです。当然、それを続けることにより、自分自身の絶対的な価値は下がる一方。行きつく先は「底辺」というわけだから本末転倒としか言えません。

○当面する行動

- 5月20日（金）18：00～/労金博多支店推進委員会 オリエンタルホテル福岡
- 5月20日（金）18：30～/憲法フォーラムin福岡 サイエンスホール
- 5月23日（月）18：30～/筑紫平和センター役員会 筑紫教育会館
- 5月26日（木）15：30～/2021年度決算経営協議会 JR九州本社